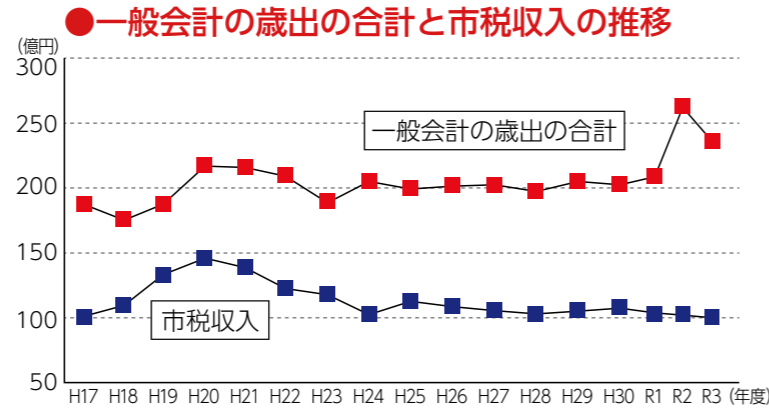


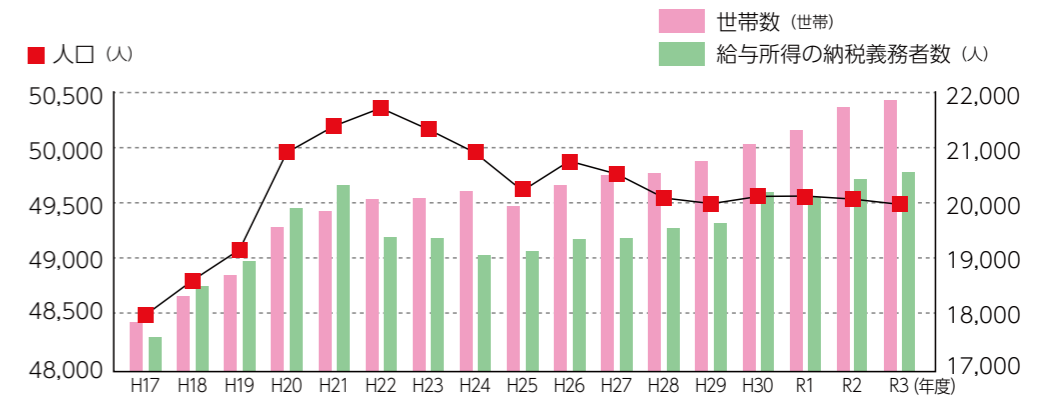
決算経過

令和3年度決算については、市税収入は減収となったものの、普通交付税や臨時財政対策債が増額となったことなどにより、一般財源が確保されたことから、おおむね財政の健全化を図ることができました。



人口・世帯数・納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
※給与所得の納税義務者数は7月1日現在



歳入の経過

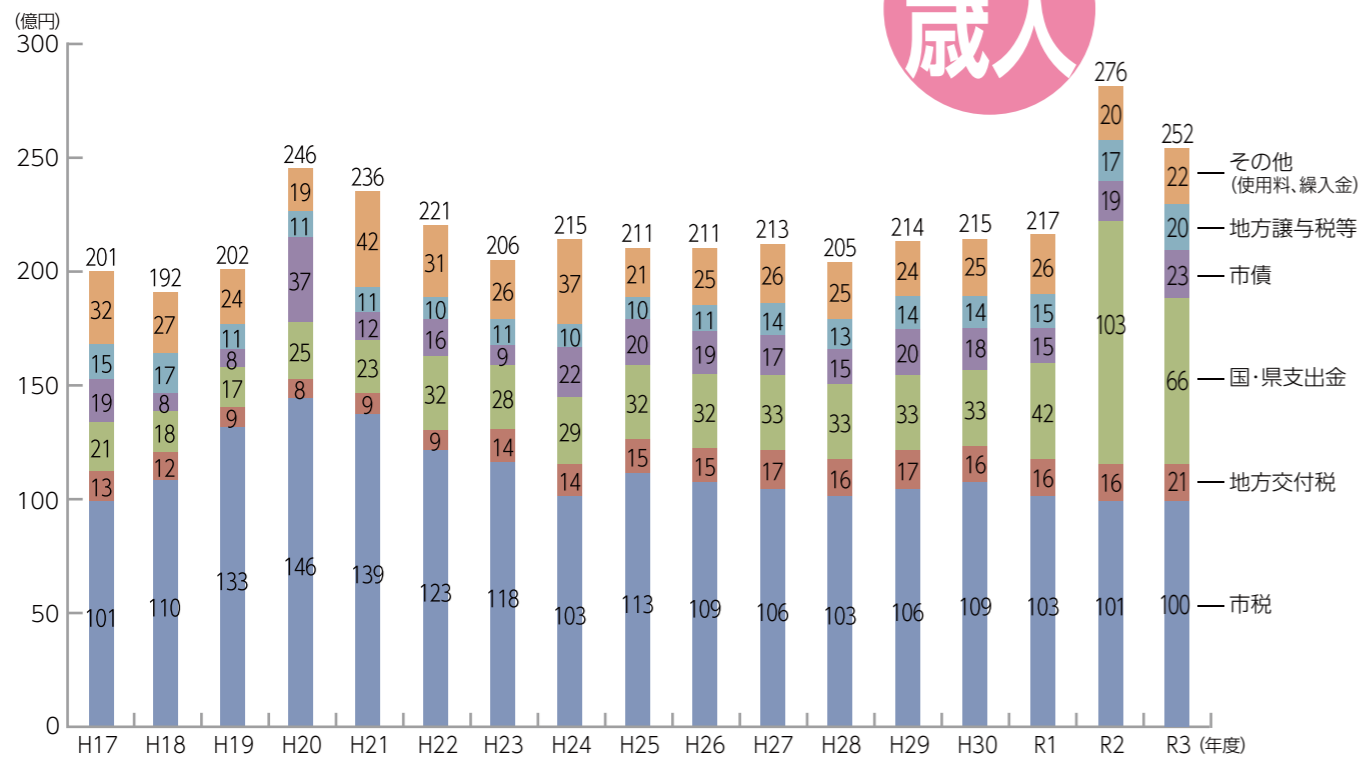
人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となったものの、以降は減収傾向にあり、令和3年度決算では100億円と前年度より約1億円の減収となりました。

令和3年度決算は、個人市民税については新型コロナウイルス感染症の影響等により減となり、固定資産税については企業における償却資産が減となったほか、新型コロナウイルス感染症対策における特例措置による減が主な要因となり減収となっており、今後も市税収入の確保に努める必要があります。

国・県支出金が66億円となり、子育て世帯臨時特別給付金や住民税非課税世帯等臨時特別給付金に係る補助金による増はあったものの、前年度に、市民一人当たり10万円を支給する特別定額給付金給付事業に係る補助金があったため前年度より37億円の減収となりました。

また、その他の収入は、地方特別交付金について、固定資産税の特例措置に伴う財源補填により増、地方交付税について、国税収入の増額に伴い追加交付があったこと等により、前年度より増加しました。

市債(借金)は、臨時財政対策債、都市計画事業債などの財源を借り入れ、前年度より4億円増の23億円となりました。



市税…市民税、固定資産税、たばこ税など
地方交付税…国税のうち市に配分されたもの
国・県支出金…国や県から交付された補助金など
市債…国や銀行からの借金

地方譲与税…国税・県税の一部が市に譲与されたもの
使用料…市営施設の使用料など
繰入金…市の基金から引き出した資金など

歳出の経過

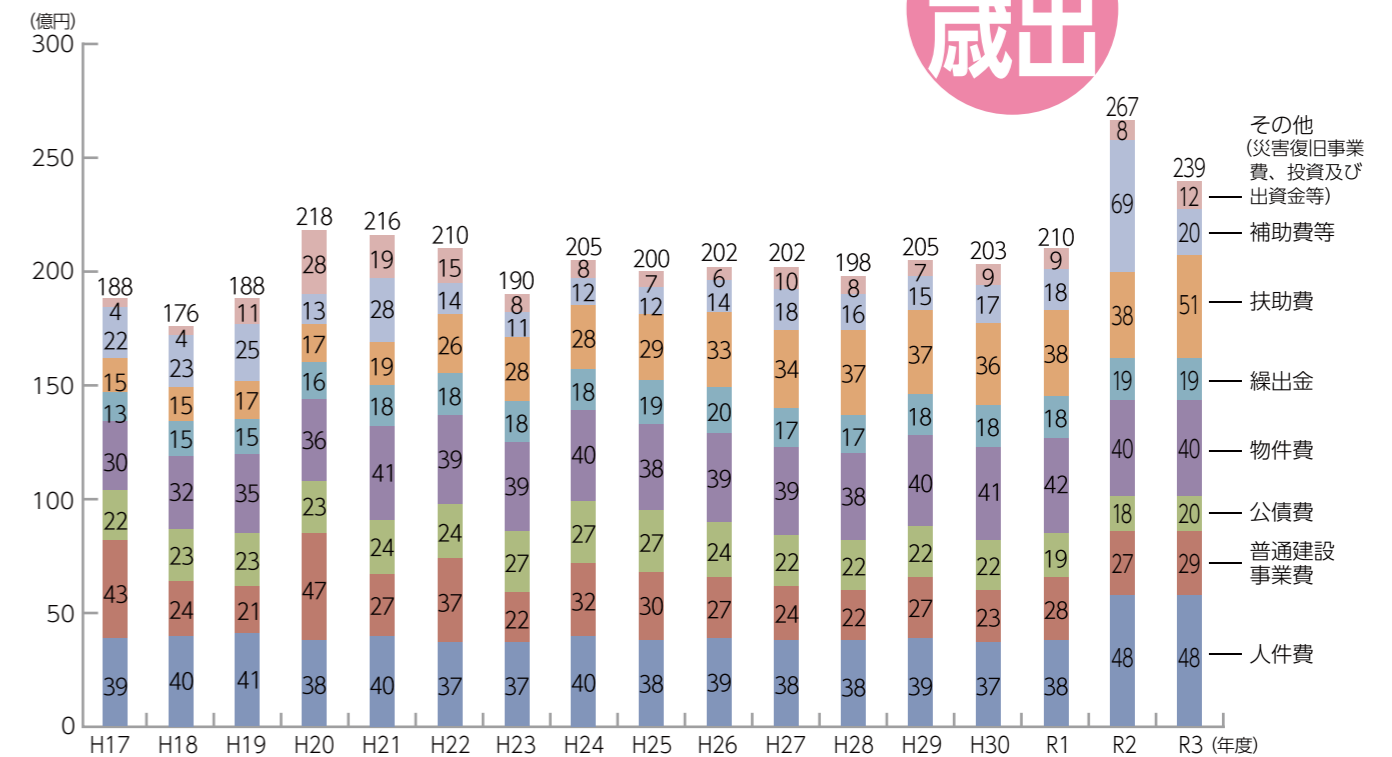
人件費は、会計年度任用職員報酬の増に伴い、前年度より1億円増の49億円、扶助費は、子育て世帯臨時特別給付金給付事業、住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業があったこと等が要因となり、前年度と比較して13億円増の51億円となりました。

補助費等においては、前年度に市民一人当たり10万円を支給する特別定額給付金給付事業があったことが要因となり、前年度と比較して49億円減の20億円、繰入金においては前年度並みの19億円となりました。

普通建設事業費については、亀山駅周辺整備事業により、前年度より2億円増の29億円となりました。

また、公債費(借金の返済)は、前年度より2億円減の20億円となりました。

物件費については、新型コロナウイルスワクチン接種に係る経費等を要し、プレミアム付商品券事業等を実施した前年度並みの40億円となりました。物件費は歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を徹底する必要があります。



人件費…市職員の給料や議員報酬など
普通建設事業費…道路・学校・庁舎など、公共施設の新築・改修に使った費用
公債費…市債の元金・利子や一時借入金の利子
物件費…光熱水費、消耗品費、業務委託料など
繰入金…国民健康保険事業などの他の会計へ繰り出した費用

扶助費…生活保護、障がい者支援、医療費助成など福祉に使った費用
補助費等…報償費、負担金、補助金など
災害復旧事業費…大雨、暴風などの災害により被災した設備の復旧などに使った費用
投資及び出資金…財産を有利に運用するための投資や他団体への出資金など